



花暦 菊



東京日野プロバスクラブ
創立平成22年9月16日

プロバスだより

2012～2013年度 会長・菊池昭雄 幹事・奥 修平
2012(平成24)年10月18日(木)・第23回例会 第2巻第04号(通算24号)

< 菊池昭雄会長テーマ >

自立の精神で、独自の奉仕活動を創造し取り組む
クラブ運営には、相互の理解を深め、協調を旨とする
例会は全会員が集う親睦の広場、参加の喜びを持ち、気楽に楽しく
他クラブとの交流で視野を広め、深化し続けるクラブを目指す

理事会報告

日 時 平成24年10月11日(木) 14時～16時
場 所 日野宿交流館・3階第2会議室

< 第23回例会 >

開 会 例会委員会 中村代志子委員長

日 時 : 平成24年9月20日(木) 12:30～14:30
会 場 : 高幡不動尊 客殿2階

【出席報告】

会員総数34名 本日の出席者29名 出席率85%

会長挨拶 菊池 昭雄会長



10月例会になりました。秋ですね。秋と云えば、芸術の秋、スポーツの秋、読書の秋、その他にも皆さんそれぞれの秋があると思います。

「天高く馬肥ゆる秋」、「食欲の秋」とも云います。他にも「女心と秋の空」と云うのがありますが、この言葉は昔は「男心と秋の空」だったようです。大正時代に浅草オペラで「女心の唄」が大変流行ったそうです。それ以来「秋の空」は「女心と秋の空」と云うようになったそうです。いずれにしても、男であれ、女であれ、心変わりすると云う事は誰でもあろうかと思えます。私は「多情多感」の青春時代を過ごした記憶があります。

最近、感動したことがあります。中山教授の「ノーベル賞」受賞です。ips細胞は髪の毛一本から、その人の様々な臓器、組織を作り出すという発明です。日本の再生医療を世界に示した功績はきわめて大きいと思えます。

研修委員会の「国立天文台」見学が行われました。古い観測機器が沢山あって、その機器によって日本の天文学が歴史を刻んできたと思う時に大変深さを感じ感動しました。圧巻は「4D2Uドームシアター」の4次元の天体鑑賞でした。

「愛のサウンドフェスティバル～正秋バンド」の公演がありました。澤田副会長が後援会長をされておりますが、拝見しましたが、とっても素晴らしいサウンドで、演奏はかなりレベルが高いと思えました。

私は、「正秋バンド」又は「光の家」に対して、もっとクラブが地域奉仕事業として独自の取り組みが出来ないかと思っています。ぜひ皆さんでお考え頂きたいと思えます。

10月28日(日)に「日野市民文化祭」で「日野市民謡大

会」が開催され、安孫子さんが参加されます。皆様もぜひ会場まで足を運んで頂きたいと思えます。

10月20日(土)にヘルシエイジング学会の「講演と健康測定・相談会」が開催されます。当クラブも後援をしておりますので、皆様のご参加をよろしくお願い致します。

幹事報告

奥 修兵幹事

①「同好会」に対してクラブより年間10,000円の助成をいたします。「カメラ愛好会」、「ゴルフ同好会」がありますが、今後益々活発に同好会が出来ることを期待して有効に活用して頂きたいと思えます。又、助成金利用の活動内容などの報告は八王子・多摩・日野3クラブ協議会の中でどのような形にしているかを聞いて詰めていきたいと思えます。



②第68回国民体育大会日野実行委員会より第5回総務広報歓迎専門委員会開催の案内が届いております。

日 時 10月24日(水)14時～
会 場 日野市民の森ふれあいホール

③全日本プロバス協議会全国大会の参加は菊池会長、奥幹事、矢野副幹事、渋谷会員の4名となりました。

④例会委員会で他クラブの例会を見学したいという申し入れがありました。当クラブ理事会開催日時との調整をして参加したいと思っております。

委員会報告

○例会委員会 中村代志子委員長
11月8日(木)に東京八王子プロバスクラブの例会に参加して例会進行について参考にさせていただきます。新会員の佐々木京子会員が例会委員会委員になりました。よろしくお願ひします。

○情報委員会 小西 弘純委員長
9月例会の「プロバスだより」及び8月例会訂正版2部。他に他市在住会員へ「日野広報」を配付。「ロータリーの友」紹介は田中作治RI会長が日韓親善会議で講演した中の「ノーベル賞の所以」について紹介する。

○会員委員会 土方 尚功委員長
報告事項はありませんが、例会終了後委員会を開催致します。委員の皆様にはよろしくお願ひ致します。

○研修委員会 瀬川 爾朗委員長
「国立天文台」見学を開催致しました。

日 時 9月28日(金) 13時集合
参加者11名(日野PC8名、日野RC3名)

説明・世話人 副台長 渡部潤一様 ※裏面に続く



左上写真
日時計について説明
右上写真
古い建造物について説明
左写真
全員で記念写真



○地域奉仕委員会 渡辺 明 委員長 ※「夢ふうせんバザー」開催の案内

日時 10月28日(日) 9時30分～14時
皆様からの品物のご協力ありがとうございました。



当日はぜひ、皆様に購入して頂き、その資金が活用できるようにご協力をお願い致します。

※「正秋バンド」公演

日時 9月29日(土)
「正秋バンド」澤田研二後援会長の挨拶

○その他の報告

※『カメラ愛好会』 山本英次カメラ愛好会会長
「カメラ愛好会」を発足させて頂きました。参加希望の方は参加者募集用紙に記名等をお願い致します。

※活動予定内容等は配付資料でご確認下さい。

※『ゴルフ同好会』 疋田久武ゴルフ同好会会長
9月28日(金)に3クラブ合同ゴルフ同好会の打合会を行いました。初年度八王子からはじめて毎年多摩、日野順に幹事持ち回りで行います。又、本日詳細決定のため例会終了後に打合会を行います。

プロバスクラブ賛歌

閉 会

澤田研二副会長

菊池年度になって4ヶ月が経ち、理事会では各委員長より活発なご意見を頂き今日の例会を迎えております。

先日、とげぬき地蔵で「感謝していること」についてインタビューを受けました。ノーベル賞を受けた山中さんは周りの方に感謝の言葉を多く使われています。私は山中さんが立派だなど思ったことは医学面は勿論、周りの方たちへの感謝と配慮が一番立派だったと思います。



<今月の会報担当 大島委員>

メンバースピーチ

○テーマ「水と私」 市川資忠会員

私が生まれた昭和4年から昭和12年頃までの高幡は、40件ほどの住宅が立ち並ぶ程度で駅も今より110mほど西寄りの、私の家の目前でした。当時は、父親がタクシー会社を営んでおりました。川崎街道もまだ砂利道で車はフォードやシボレーといった外車でした。高幡不動尊の先代の秋山祐雅御前とは立川中学時代の一級先輩で、よく相談したりしておりましたが『君の親父のやっていることは30年くらい早かったな』と言われたことを記憶しております。その頃の川崎街道は田んぼが広がり、100mおきに地下水が噴きだして、この水ではもとより、牛馬も潤っておりました。高幡の街には当時20軒程の「カフェー」があり、近隣の男性たちがきて、店の女給さんと戯れたりしていましたし、北には多摩の横山や南には多摩川、浅川といった環境のよい街でした。

昭和12年に、支那事変が勃発し、「カフェー」も閉店し、我が家の自動車も陸軍に徴収されて、父親から『これからは狭苦しい日本ではなく、南方などで農業指導をやってみよう』と言われて農業学校を出て農林省に勤めておりましたが、終戦後に、父の弟が大阪で「日東サク泉工業所」という井戸を掘る会社を設立して、私に『これからは、東京もビルの建設ラッシュが始まって井戸の需要が急激に伸びる』と東京に支店をつくり、任されておりました。当時は、水道だけでは間に合わず、各ビルは井戸を掘って飲料水や冷暖房に使っておりました。ところが急激な地下水の汲み上げにより地盤沈下がおこりだして規制が強まり、新規の井戸の掘削ができなくなりました。

私は、高幡に戻ってビルや各地にできてきたゴルフ場の井戸を掘って、多忙な日々を送っておりました。昭和40年頃から住宅地の開発が進み森林伐採の影響をうけて、これまで噴いていた井戸が止まり、急遽ポンプで汲出すといった時代もありましたが、植林が進み、最近ではまた自噴する井戸が増えてきております。一昨年も東豊田公園に井戸をつくったのですが、いい水が吹き出しております。日野市民プールや七生中学校でも井戸を掘ってプールに使っておりますが、井戸水は水温が夏冬とも15～16度と一定で水温が冷たすぎますので、汲み上げた水を一旦貯水し、温めて使用しております。



最近では、日野市の大企業等の撤退により、地下水の汲み上げが止まったりしますと、井戸にも微妙な変化が起こります。地下水の流れは複雑で難しいものだと痛感致します。

昭和40年以前のポンプは、地上にモーターを設置し、井戸の中にシャフトを入れて組み上げる方法でしたが、水圧で絶縁不良を起こすなどの故障も多く難儀をしておりましたが、ドイツで開発された水中ポンプに改良を重ねて、帝国ホテルにも導入したりしてきました。

井戸は、それぞれの地域により水質や水位も異なってきましたので、大変な作業で、水が出た時の喜びはひとしおで、職人達とよくお祝いをしたものですが、最近では、井戸掘削は月に1、2件程度で、最近では既に工事を行った井戸の修理や維持管理の仕事が主になってきております。モーターは約8年ほど経過しますと回転が悪くなり、故障の原因となりますのでメンテナンスが必要です。

私が良い井戸だと実感している井戸は、七生中学校のものや多摩平の東京都の水源となっている井戸で、水質もよく、いくら汲んでも水量が豊富で砂などの混じりがないものです。

東京都の水道も整備が進み10年ほど前までは奥多摩の小河内ダムが主な水源でしたが、現在は、緊急用とされて、都民の一ヶ月分の水として確保されており、利根川、荒川の水が日常の水道水として使われています。

井戸を掘るには、熟練やカンが必要な作業ですが、職人の数が減ってきて苦慮しております。井戸は災害時の緊急用として役立ちます。先日も日野市三沢で水道管事故により2時間断水しましたが、トイレは1回流すと使用不能となります。近くに井戸があれば、バケツで運べば使用可能となります。横浜では、緊急災害時には道路のマンホールに囲いシートを作り緊急の架設トイレにするとの計画がありますが、実効性が疑われます。住宅建築ブームが去り、住宅の新築戸数が減ってきて、今まで仕事の6割強を占めていた新築の水道工事でも今はゼロに近くなって、最近では公共工事やこれまで携わってきた、数万件の井戸や水道工事の修理・リフォーム等を請け負って営業しております。

3年ほど前から、東京都では、これまで各自治体で運営していた上下水道事業を東京都水道局に一体化して運営し、赤字に悩んできていた自治体の救済策となっております。

<卓話・記 大島委員>

編集・発行 情報委員会

小西弘純・林 良健・安孫子秀子・大島芳幸・新田 進・小林昭治